

女の新聞

クワッサン

10日・25日の
月2回発行

日常生活の中の差別 126

被生活保護者やホームレスといったレッテルを 先に見てしまおうのではなく、「人」を見なければ。 山本雅基さん

やまもと・まさき 「きぼうのいえ」施設長

東京・台東区の通称「山谷」地区。高度経済成長期には建設業を中心に、職を求める日雇い労働者が多く集まり、「ドヤ」と呼ばれる簡易宿泊所が建ち並ぶ場所として知られていた。その山谷のど真ん中に2002年秋、ホスピスを作ったのが山本雅基さんと美恵さん夫妻だ。身寄りがなく行き場を失った、余命に限りがある人が、最期まで普通に暮らし、自然に死を迎えるための家。訪問医、看護師による診療や、介護保険を使つてのケアサービスを受けられるようになっていて、運営は入居者に支給される生活保護費と寄付でやりくりしている。赤字だ。しかも、厳しい日々を生き、さまざまな体験をしてきた入居者たちは強烈な個性派ぞろい。人から愛されてこなかった人も多い。そんな人々を相手の毎日は、想像を超える「事件」の連続でもある。

「この3年半はまさにあつという間という感覚です。まだ火曜日かと思つたら実は金曜日、なんてことはざらで。いろいろ起こることに対処していたらそんな感じになって、四六時中、入居者と一緒で共倒れになる寸前まで行つ

てしまったので、今は意識して離れる時間を作るようにしています」

山谷で病人が多く住んでいるのはこ

こだけだからと警察が見回ってくれたり、生活保護を受けている人たちからは「ここには先輩がいる」と一目置かれたり、近隣からは「ゆくゆくここに入るかも」「汚い人が入つてくれてありがたい」などと思われながら、なんとか受け入れてもらつていて、山本雅基さんは言う。

レッテルからくる嫌悪感。

「今、入居者の65%が元路上生活者ですが、一般の、その人たちへの嫌悪感をいかに拭うかが課題のひとつです。ホームレスの人は確かに汚くしているし酒を飲んだりもしているけれど、お風呂に入って服を着替へたら、そんなに嫌がることかと。『ホームレス』というレッテルを先に見てしまふ。言葉の蓄積が、差別を作るのだと思います。ホームレスや被生活保護者への対応がまるで犯罪被告人に対するような福祉事務所も、いまだにあります」

うれしい発見もあつた。訪問看護師やヘルパーとして来てくれる女性たちが、入居者を快く受け入れてくれた。

「手を取つて散歩する姿を見ると、この地区に一番必要なのは母性だったのだ、と思います。ボランティアの申し出をしてくださる人も増えました」

赤字を減らすべく始めたこともある。

「高齢化社会になると、単身の高齢者の在宅化がもつと進みます。在宅で訪問診療してもらおうほうが病院にずっと入院しているより費用が抑えられるとなれば、自治体も助かる。私たちのように土地を買つて建物を建てて生活してという場合でも、月々の生活保護費に一人当たり2万5000円くらい足すとやつていけるということを事業モデルとして実現しようと考えています。近くの『いろは商店街』にはヘルパーステーションを立ち上げました。訪問医、看護師のレベルについていくため、ターミナルケアに対処できる技術と、情報や感性を共有できるヘルパーを養成したいと思つています」

死を隠すこと、死にゆく人を困つてしまふのは違ふと山本さんは考える。「元氣そうで明るい人もいるじゃないと、皆に見てもらふこと。開かれていくことが大切です。家族ではないけれど、それに近い人がいるコミュニティで暮らし、死んでいくことが自然であつてほしいと思つています」

●あなたはこの意見をどう思いますか。

死を隠したり、死にゆく人を困つてしまふのでなく、大切に思つてくれる人たちのいる「コミュニティ」の中で自由に暮らし、自分らしく生きて死を迎える。それが自然なことであるべきだと思つています。



入居している人の部屋の一つ。常に、20人から30人が入居を待っている状況。山本さんの悩みでもある。



なぜ「きぼうのいえ」を作ることになったのか。作つてからの波乱続きの日常。送つた人たちのことなどを記した東京のドヤ街「山谷」でホスピスが始まりました。「きぼうのいえ」の無謀な試み。



山本雅基さんと妻の美恵さん。「きぼうのいえ」だけがいいとは思いません。世話する人にもされる人にも個性や相性があるし、他の場所のほうがいい場合もある。経験から学びました。

●現代の日本では差別はあつてはならないことです。しかし残念なことに、私たちが気付かないところで差別の実態は存在しています。日常生活の中の差別について共に考えていくために、読者の皆さんの意見や体験談を募ります。クワッサン編集部/女の新聞係まで、手紙をお寄せください。(FAXは不可とさせていただきます)

●寄付は郵便局でできる。00190-6-388670「きぼうのいえ後援会」。後援会会員にもなれる。詳しくはwww.kibunoue.info/を。